

当院における無痛（和痛）分娩について



分娩・出産時の痛みを和らげる方法はいくつかあります。歴史的には、静脈麻酔や吸入麻酔薬などで全身麻酔を利用していた時代もありましたが、現在は、無痛（和痛）分娩といえば最も一般的な方法は硬膜外麻酔鎮痛法と呼ばれる方法です。当院でもご希望により硬膜外麻酔併用での分娩を行っています。硬膜外麻酔は優れた麻酔方法ですが、副作用などの問題点もいくつかあります。そのため、原則として、夜間・時間外・日曜・祝日は行っていません。

方法

分娩前もしくは分娩中に脊髄の近くの硬膜外腔と呼ばれる場所に背骨の間から細くて柔らかい硬膜外麻酔カテーテルというチューブを挿入します。稀ではありますが、カテーテル挿入自体が困難な場合もあります。当院ではおもに、麻酔薬としてロピバカイン[®]あるいはマーカイン[®]を使用しています。

麻酔を注入するとおおよそ15～30分程度で下肢が温かくなると同時に痛みが和らいでいきます。場合によっては下肢が動きにくくなることや痺れが出て歩きにくくなることもあります。麻酔薬の注入方法としては機械で持続的に注入する方法と、1～2時間ごとに間欠的に注入する方法があります。原則として、麻酔を開始するタイミングは子宮口が3～5cm程度に開大し、有効陣痛が得られてからです。あまり早くから麻酔を始めると分娩の長期化や、帝王切開になる可能性が上昇するとの報告もあります。

なお、当院では麻酔医ではなく産科医が麻酔を行っています。

硬膜外麻酔分娩の効用

□ 出産での痛みの軽減

硬膜外麻酔は陣痛（子宮収縮による強い痛み）や産道が広がるときの痛みを和らげる効果があります。これらの痛みは個人差が大きく、それほど苦しまずに分娩を終える妊婦さんもしれば、信じがたいほどの激痛を感じる妊婦さんもいます。「無痛分娩」というと全く痛みがなくなるような錯覚を与えますが、完全に痛みがなくなるわけではありません。鎮痛効果には個人差が大きく、大変効果的に鎮痛効果が得られる場合もあれば、ご自身が期待していたほど鎮痛効果が得られないこともあります。

□ 血圧の変動を減少させる

妊娠高血圧症候群などを合併している妊婦さんでは分娩時の血圧の変動を減少させる効果があります。そのような妊婦には医学的な理由からむしろ硬膜外麻酔の併用を勧めることもあります。

□ 軟産道の弛緩作用

陣痛により過緊張となっている時や、軟産道が硬い妊婦様には産道を軟らかくする効果があるといわれています。

問題点

□ 分娩遅延、器械分娩（吸引分娩）の頻度の増加

硬膜外麻酔は陣痛の痛みを和らげると同時に微弱陣痛になりやすいため、陣痛促進剤の投与量を調整するのですが、分娩に要する時間は麻酔をしない場合と比較して長くなることが多いといわれています。また、分娩前に感じる怒責感（いきみたい感じ）が消失することもあります。

□ 鎮痛効果の個人差

鎮痛効果には個人差が大きく、効果的に鎮痛効果が得られる場合もあれば、満足以鎮痛効果が得られないこともあります。また、部位により効果に差がでたり、左右差がでることもあります。

□ 硬膜外麻酔の合併症

硬膜外麻酔は医療行為である以上、合併症を起こす可能性が僅かながらあります（以下の表）。多くの合併症は対処が可能であるか、もしくは自然軽快するものが殆どですが、重篤な後遺症を残す可能性のある合併症も起こりえます。安全に行うために、当院では原則として、十分な観察が可能な平日の日中のみに限って麻酔を行っています。

【主な合併症（頻度）】

低血圧（約20%）、硬膜穿刺後頭痛（約1%）、背部痛（30～40%）、

局所麻酔薬の血管内誤注入（約2%）、局所麻酔薬のくも膜下誤注入（不明）、硬膜下注入（0.1～0.82%）、

硬膜外血腫（非常に稀）、硬膜外腫瘍（非常に稀）、神経障害や感覚異常（1万例当たり5～42.3）

・・・照井克生著 硬膜外無痛分娩より

その他

□ 麻酔による児への影響

直接的な影響として局所麻酔薬が胎盤を通過して児にどれだけの影響を及ぼすかということですが、現在報告されている範囲ではほぼ問題はないとされています。間接的な影響としては、母体の血圧低下による児への血流低下が考えられますが、厳重な血圧の管理を行えばこれもほぼ問題ないと思われます。

□ 既往帝王切開後の経膈分娩、骨盤位分娩

既往帝王切開後の経膈分娩、骨盤位分娩の方には硬膜外無痛分娩は行っていません。

当院の無痛分娩管理料

薬の注入開始時刻より、	6時間以内・・・・・・・・・・	10万円
	6時間～12時間以内・・・・・・	12万円
	12時間以上・・・・・・・・・・	14万円

以上をご理解のうえ妊婦様の安全を重視し、硬膜外無痛（和痛）分娩を行っています。
ご不明な点は医師、助産師、看護師にお尋ねください。

無痛（和痛）分娩の説明と同意書

杉浦ウィメンズクリニック 院長殿

私は、貴院における無痛分娩についての説明を別紙にて担当医師より受け、十分に理解いたしましたので、その診療行為に同意いたします。
また、そのうえで必要となる医療措置を受けることにも同意します。

説明年月日 令和 7 年 月 日

説明医師氏名 杉浦健太郎 松本隆万

令和 7 年 月 日

住所 _____

妊婦氏名（署名） _____ ⑩

配偶者（代理人）氏名（署名） _____ ⑩